

コメント

溝上慎一（桐蔭学園）

事務局からの論点資料のスライド 30 で、「2. 中学校・高等学校段階」のところで、次のように述べられています。

「高校では、小学校・中学校の系統性を踏まえて情報科の内容を充実しつつ、総合や各教科等での情報技術を基盤とした探究的な学びとの関連を図ってはどうか。また、学校設定教科・科目の活用等、総合と他の科目との組み合わせなどにより、一層柔軟に探究の充実を図れるようにしてはどうか。」

前半の「情報化の内容を充実させつつ、・・・情報技術を基盤とした探究的な学びとの関連を図」という提案はとてもいいと思います。

問題は後半で、「学校設定教科・科目の活用等、総合と他の科目との組み合わせなどにより、一層柔軟に探究の充実を図れるように」するという提案です。これは、各教科等との横断を想定していると考えられます。小学校では、研究開発学校の取り組みなども踏まえて実現できると思いますが、高校では各教科等の学習内容が専門的になりすぎているため、また教科教員の横の連携がさほど強く作れませんので、まずできないと思います。また、せっかく情報と探究を分けてそのカップリングのもと、本来の探究的な学習がもつ自己の在り方・生き方を踏まえた課題の設定に向かおうとしていたものを、教科等と関連させると主張されることで、高校生にしてみれば、各教科等にとらわれない（高校にとっての教科等横断はこの程度の意味です、あるいは生徒自身が課題によっては各教科等の学習内容と繋げていく）、自身がほんとうに気になる課題を取り扱いたいのに、上から教科等に関連させて課題を見つけなさい、という指示になっていく、ということをたいへん危惧します。

今回の特別部会では、各教科等で、「中核的な問い」「概念的な指導」をもとに授業づくり・実施していくことが求められる方向で議論されています。これを導入することこそが、各教科等の中でも探究的な学習のポイントを取り入れることになり、理想的な習得・活用・探究を回すことに繋がります。高校でも強く導入を促すもので、それを探究側から繋げよ、と主張する必要性はまったくないと思います。

私がかうまく事務局の意図を理解できていないということであれば、小学校と一緒にした議論で、「探究的な学習」「総合的な学習・探究の時間」の大きな方向性を一緒にまとめてしまう議論は大変危険だと見えます。少なくとも、高校だけを対象とした議論で有識者から教科等横断の実現可能性について意見をもらい、是非を丁寧に検討して欲しいと希望します。